

施策評価シート

評価年度	平成28年度	事業実施年度	平成27年度	施策主管次長名	子育て健康部次長 塚田 芳司
施策番号	70	施策名	地域で青少年を支えるまち	総合計画掲載頁	116
関係課名	子育て支援課、教育行政課				

1. 施策の概要

施策の目的	対象	・市民 ・児童 ・青少年	対象指標名	単位	H26実績	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
			① 人口	人	59,885	60,365	60,710	61,056	61,401	61,744
			② 6歳から18歳の人口	人	9,832	9,646	9,453	9,358	9,264	9,171
			③ 子ども会加入児童	人	3,546	3,370	3,184	3,200	3,200	3,200
意図	心身ともに健全に成長してもらう	成果指標名	①	青少年補導員月間巡回数						
			②	青少年補導員による年間補導件数						
			③	心の電話相談年間件数						
			④	子ども会の加入率						

2. 成果指標

指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
①	青少年補導員月間巡回数	回	4	8	8	8	8	8	8
	指標設定の考え方と把握方法	非行防止を目指した取り組みとして設定し、毎週定期的に巡回する回数により把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
②	青少年補導員による年間補導件数	件	215	220	227	220	220	220	220
	指標設定の考え方と把握方法	非行防止を目指した取り組みとして設定し、青少年補導員の補導件数(声掛け程度含む)により把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
③	心の電話相談年間件数	件	208	200	283	300	300	300	300
	指標設定の考え方と把握方法	青少年が心身ともに健やかに育っているかとして設定し、心の電話相談件数により把握							
指標	成果指標名	単位	H26実績	H27計画	H27実績	H28計画	H29見込	H30見込	H31見込
④	子ども会の加入率	%	84	84	82	84	87	90	90
	指標設定の考え方と把握方法	児童が自主性と社会性を高めるために子ども会に加入しているかとして設定し、子ども会加入率で把握							

3. 施策の評価

項目	評価のコメント				
施策の成果向上に向けての市民と行政の役割分担	市民	青少年の健全な育成に向けて基本的な役割を担うのは、保護者、家庭であり、地域は青少年の自立を育む交流の機会を提供し、地域ぐるみで健全育成に取り組む。			
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心とたくまさを育む教育活動を推進し、地区青少年健全育成団体を支援する。 ・青少年の非行防止として、青少年補導員の街頭補導活動等を中心に地域と協力してパトロール活動などを推進する。 			
達成度評価	近隣との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員を設置しているのは、豊田市(276人、うち地区推薦132人)と本市だけである。豊明市、日進市、東郷町は愛知警察署が委嘱している。補導員の月間巡回回数は、豊田市が月3回、本市はH26年5月から月8回である。 ・本市のH27年度年間補導件数は、227件である。 ・本市が実施している青少年を対象とした電話相談は、近隣市町では実施していない。 ・子ども会の加入率は、豊田市84.0%、刈谷市48.2%、日進市63.1%、東郷町59.5%であり、本市は豊田市に次ぎ高い状況にある。 			
	過去3年間の実績との比較	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年補導員の年間補導件数は過去3年間平均の194件を33件(17.0%)上回っているが、これは、H26年5月より週1回の定期巡回を週2回の定期巡回としたことによる。 ・心の電話相談は、過去3年間(H24～26年度)の平均実績(119件)に対し、H27年度は、283件と大きく増加している。無言電話(158件)・相談外(10件)も同様に多い状況である。 ・子ども会加入率は、減少傾向である。 			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆インターネットやスマホ等の普及により、青少年の交流範囲は一気に広がっている。一方で交流相手がわからないなど短所もあり、特に青少年本人の自覚がないまま犯罪に巻き込まれたり、いじめにつながるケースが増えてきている。 ◆心の電話相談件数は、H25年まで70件程度で推移していたが、H26年度は 208件、H27年度は、283件と急激に増加。主な相談内容は、性、男女問題、教育問題、また相談者は男子中高生が多くを占めており、相談員の専門化が求められている。 				
今後の取り組みの方向性および次年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ◆青少年の非行防止は長期的な展開が重要で、青少年補導員による定期巡回を継続実施するとともに、学校、地域の防犯組織などの関係者と協力して青少年を見守り、指導していく体制の強化に努める。 ◆子ども会加入率の減少の要因の一つに、子ども会・子育てクラブ活動について転入者への周知不足が考えられ、児童厚生員だより等を活用した会への勧誘や活動の情報発信の徹底を図り、加入率向上に努める。 <p>(29年度の取り組み) 青少年の非行防止や犯罪に巻き込まれないためには、家庭、学校、地域が一体となった青少年の健全育成の推進が求められる。青少年健全育成推進協議会により、少年の主張大会、青少年の非行・被害防止運動街頭啓発、青少年健全育成推進啓発作品募集、ジュニアクラブ及びびスカウトへの活動支援を実施する。また、家庭教育力等の問題から家庭学習の習慣が十分に定着しなかったり、学習の遅れがちな中高生に対し地域未来塾をサンライブで開設し学習等への不安解消に努める。</p>				
市民意識	重要度	低い	満足度	高い	平成27年度市民アンケート調査による